

市長
コラム

てっちゃんの ひとりごと

9月11日、埼玉パナソニックワイルドナイツのリーグワン初代チャンピオンを祝うパレードが行われました。私は喜びとともに、ある意味「ホッ」とした心持ちになっています。

というのも、熊谷市を「ラグビータウン」と命名したのは父（先々代市長）でしたが、それから30年以上がたちます。2019年のラグビーワールドカップまで、その鳴りを潜めていたように感じていたのは、私だけでしょうか。

私は県議時代、ワールドカップの招致議員連盟会長として様々な関連事業に携わらせていただき、特に招致が決まってからは振興議員連盟会長として熊谷ラグビー場の改修に力を入れてきました。「お客様ファーストは、良いゲームを招致できること。そのためには選手ファースト、選手に信頼され愛されるスタジアムにすること。」と常に担当者に語り、グラウンドはもちろん、ロッカールームなどバックヤードの充実にも配慮し、必要な経費を確保できるように奔走しました。ある時、担当職員から「会長、観客シートの色はどうしましょう。」と尋ねられ、即座に「ブルーがいいね。利根川を渡った先のチームのカラーだよ。ワールドカップの後も、ここでブルーのユニフォームが躍動するのを見られるといいよね。」と伝えたことを思い出します。

その後、関係皆様のご支援・ご協力をいただき、ブルーカラーのワイルドナイツを熊谷市に迎えることができました。そして、そのワイルドナイツが見事日本一となり、熊谷市も名実ともに「日本一のラグビータウン」になったといえるのではないのでしょうか。

さて、次なる展開は、埼玉県5か年計画に復活した「コミュニティひろばへの新施設」。そして、広域的な連携を図るための「利根川新橋」が待っています。



パレードの動画